



平成20年7月8日

各 位

会 社 名 サッポロホールディングス株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長 村上隆男
コ ー ト 番 号 2501
上 場 取 引 所 東証・札証
問 合 せ 先 取締役 経営戦略部長 上條 努
TEL 03 (5423) 7407

SPJSFによる当社株式の買付提案にかかる経過について

本日、スティール・パートナーズ・ジャパン・ストラテジック・ファンド（オフショア）、エル・ピー（以下、「SPJSF」といいます。）より、当社取締役会が、「度重なる SPJSF からの要請にもかかわらず一切交渉することなく修正提案を却下した」といった趣旨の批判を記述した書状を受け取りましたが、事実とは異なる記述や誤解を招きかねない記述が多数見受けられますので、以下にこれまでの経緯と当社取締役会の考えについて説明いたします。

当社取締役会は、SPJSF による平成 19 年 2 月 15 日付の当社株式の買付提案及び平成 20 年 3 月 10 日付の同修正提案に関し、平成 20 年 5 月 2 日に SPJSF の関係者と直接面談を行い、その後も SPJSF の国内連絡先となっている SPJ 株式会社の関係者（以下、「SPJ 社関係者」といいます。）を通じて話し合いを行なってきました。

そして、現時点で多くの当社株主や当社企業価値の源泉であるステークホルダーが、SPJSF が当社株式の保有比率を高めることに対して不安や懸念を示しており、一方で SPJSF も、これまでの当社取締役会への回答や説明の中で、自らが長期的な投資家であることや当社経営陣と協働して当社の企業価値を高めていきたい旨の意向を示していたことから、当社取締役会は、SPJSF を含む当社株主、並びにその他全てのステークホルダーが満足できる解決策になることを期待して、「当面は当社株式の保有比率を 20%未満に留めたくうえで、当社経営陣による当社企業価値向上の取り組みを大株主の立場から支援いただくこと」を、平成 20 年 6 月 9 日に SPJ 社関係者を通じて SPJSF に提案いたしました。具体的には、当社企業価値の向上を図ることを目的として、SPJSF が昨年 11 月に提出された『企業価値向上へのアプローチ』や、当社経営陣が昨年 10 月以降に発表した経営構想や経営計画等について、双方で建設的なディスカッションを定期的に行う場を設置するなど、当社企業価値向上にむけて協働を行っていくことを提案したものです。

また、平成 20 年 6 月 9 日の上記提案は、SPJSF と当社間の話し合いのベースとして現在の当社取締役会の考えを示したものであり、これ以外の選択肢を検討する余地を排除するものではありません。また、当社取締役会としては、SPJSF による当社株式の買付提案の諸条件についても引き続き話し合う用意があります。これらの点については、いずれも、平成 20 年 7 月 7 日に SPJ 社関係者の訪問を受けた際に、SPJ 社関係者から確認を求められましたので、明確に申し伝えました。

しかしながら、本日受領した SPJSF からの書状では、このような当社の考えは反映されず、SPJSF の考えが一方的に述べられています。また、SPJSF は、当社取締役会への書面での回答に

は、「自らが長期的な投資家である」ことや、「協働して当社の企業価値を高めていきたい」といった言葉を並べながら、SPJ 社関係者を通じたやり取りの中では、当社株式を買い増すための条件以外には全く興味がないかのような発言を繰り返し、当社取締役会からの提案については受け入れられない旨の意向を示すのみで、当社の企業価値向上にむけての協働に関しては議論しようとしませんでした。

かかる状況下において、一方的に当社取締役会を批判する書状を送付し、事実と異なる内容や誤解を招きかねない内容の公表を行った SPJSF の対応については、当社取締役会として大変遺憾に思います。

当社取締役会としては、平成 20 年 6 月 9 日の提案が SPJSF に受け入れられなかったことにつきましては大変残念であります。当社の株主全体の利益の保護ならびに当社企業価値の最大化の観点から、今後も SPJSF と当社株式の買付提案にかかる話し合いを行なっていくとともに、本日受領した SPJSF からの書状の内容について更に詳細に検討し、必要に応じ当社取締役会の考えを説明したいと存じます。また、本件にかかる今後の経過等については、適時適切に開示してまいります。

以上